

様式 C-19

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月20日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530785

研究課題名（和文） 自然と教育—ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在—

研究課題名（英文） Nature and Education: A Periphery of the Goethe's Natural Science and the Present Understanding of the Human Formation

研究代表者

笹田 博通 (SASADA HIROMICHI)

東北大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：80154011

研究成果の概要（和文）：

- (1) ゲーテ自然学の基調を「生命原理」として考察したうえで、それを近代のドイツ精神史、とりわけ自然観の歴史の文脈のうちに位置づけた。
- (2) 現代自然科学、ことに「生命科学」との連関からゲーテ自然学の今日的な意義を究明した。
- (3) ゲーテ的自然（根源的自然）が人間形成にとって有する意味を、教育現象学、現代存在論、西田哲学等の視点から教育学的に探究した。

研究成果の概要（英文）：

- (1) We supposed the basis of the Goethe's natural science as the 'life-principle', and elucidated it in the context of the modern German intellectual history, especially the history of the nature-understanding.
- (2) In relation to the modern natural science, especially the 'life-science', we clarified the meaning of the Goethe's natural science for it.
- (3) Pedagogically, we inquired the meaning of the Goethe's nature-thought (*Urnatur*) for the human formation, on the viewpoint of the phenomenological pedagogy, the modern ontology and the Nishida's philosophy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：ゲーテ自然学、人間形成、根源的自然、生命原理、教育現象

1. 研究開始当初の背景

自然理解に基づく人間形成観は、教育学の歴史において古くから展開されており、たとえばルソー、ペスタロッチ、フレーベルらの、いわゆる「合自然的」な教育思想にその典型

を認めることができる。この教育思想に関する研究が国内・国外で盛んに行われてきたことは言うまでもない。しかし、「自然と教育」をめぐる思索とゲーテ自然学との接点、すなわち、形姿の生動的変化としての「形成（教

養)の原理、根源的自然にそなわる「治癒力」の問題、根源現象からみた自然／文化／教育の関係、等々については、いまだ十分な解明が与えられていない。こうした状況をもふまえつつ、われわれは、1988年に「仙台ゲーテ自然学研究会」(本部：東北大学大学院教育学研究科・笹田研究室、会員：研究代表者・研究分担者・研究協力者ほか)を創設した。そしてこれまで、ゲーテ自然学に関連した諸文献の研究、ゲーテ研究者(ドイツ)を招いての講演会の開催、機関誌『プロテウスー自然と形成ー』の刊行(1993年に創刊し、現在まで13号刊行)、論文集『多元的文化の論理ー新たな文化学の創生へ向けてー』(東北大学出版会、2005年、研究代表者及び研究分担者は第三章「人間形成の論理」を担当)の出版、カールスルーエ教育大学(ドイツ)との学術交流等、さまざまな研究活動によって多大な研究成果を上げてきた。今回は「自然と教育」というテーマのもとに会員が結集し、学際的なプロジェクトを遂行するに至った次第である。

2. 研究の目的

本研究は、ゲーテ自然学に基づいて自然と教育(人間形成)とのダイナミックな関係を追究していくことを目的とした。環境汚染、生態系破壊、地球温暖化、自然災害等の問題により、自然のなかでの人間の位置が根底から問われ、持続可能な社会が模索されている今日、近代のいわゆる「機械論的」な自然観を反省し、それによって新たな自然理解への視座を切り開くことは、すべての学問研究に負わされた喫緊の課題の一つである。本研究は、この課題を実現するための有力な手がかりをゲーテ自然学のうちに見ていった。そしてゲーテ的自然、すなわち根源的自然が人間形成にとって有する意味を、教育学(人間形成論)、ドイツ文学、哲学、自然科学等の視点から多角的・重層的に探究し、「根源現象」としての自然と教育との関係、さらにはその関係の生動性にアプローチした。

3. 研究の方法

- (1) ゲーテ自然学及び関連領域(教育学・教育思想、近代ドイツ精神史、近・現代の哲学、近・現代の自然科学)の文献調査・読解
- (2) 海外(ドイツ)での研究討議・実地調査
- (3) 毎月開催される研究会での討議

4. 研究成果

- (1) 課題①(ゲーテ自然学の生命原理についての考察、その歴史的位置づけ)に

関しては、ゲーテ自然学の基調としての生命原理の本質を人間形成論の視座から考察し[研究分担者：土橋寶]、ゲーテ、カント、シラー、ルソーを中心として18世紀の自然観を探究し[研究分担者：松山雄三、佐藤安功、池尾恭一]、さらに、ゲーテ、ニーチェを中心として「自然と形成」の思想を考究した[研究分担者：相澤伸幸]。

- (2) 課題②(ゲーテ自然学と生命科学との連関の考察)に関しては、ゲーテ自然学(とりわけ植物学)とそれにかかわる近・現代自然科学の文献を調査・読解し、またゲーテ自然学と密接に関連した「クラインガルテン」(ドイツ)を調査・研究した[研究分担者：金浜耕基]。
- (3) 課題③(ゲーテ自然学の人間形成論的意義の考察)に関しては、教育現象学、現代存在論(ハイデガー、ロムバッチ)、西田哲学等の視点から自然／教育(人間形成)の関係を再考し、ゲーテ自然学の教育学的な意義にアプローチした[研究代表者：笹田博通、研究分担者：齋藤雅俊]。
- (4) 各課題に関する研究成果を『プロテウスー自然と形成ー』(仙台ゲーテ自然学研究会機関誌)での論文発表、「日本ヘルダー学会」でのシンポジウム(「ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在」)、科研費研究成果報告書(『自然と教育ーゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在ー』)での論文発表等の形式において公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

1. 笹田博通、自然的形成の論理(3)ーゲーテ自然学と人間形成論ー、仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウスー自然と形成ー』、査読有、第14号、2012年、印刷中
2. Takara Dobashi, Claus Günzler, Goethes Lebensprinzip im Zusammenhang mit den Bildungstheorien der modernen Pädagogik -Eine Diskussion-, Dritter Teil, 『プロテウス』、査読有、第14号、2012年、印刷中
3. 松山雄三、Fr. シラーにおける戯曲創作と人間形成、『プロテウス』、査読有、第14号、2012年、印刷中
4. 松山雄三、Fr. シラー：ゲーテへの道(1)、

- 東北薬科大学『一般教育関係論集』、査読有、第25号、2012年、1-30
5. 金浜耕基、ドイツの市民農園 Kleingarten に導入された Kindergarten の教育理念、『プロテウス』、査読有、第14号、2012年、印刷中
 6. 笹田博通、自然的形成の論理（2）ーゲーテ自然学と人間形成論ー、『プロテウス』、査読有、第13号、2011年、93-105
 7. Takara Dobashi, Claus Günzler, Goethes Lebensprinzip im Zusammenhang mit den Bildungstheorien der modernen Pädagogik -Eine Diskussion-, Zweiter Teil, 『プロテウス』、査読有、第13号、2011年、123-144
 8. 松山雄三、シラー：ヘルダーとの邂逅、『プロテウス』、査読有、第13号、2011年、1-25
 9. 松山雄三、Fr. シラーの教育思想、東北薬科大学『一般教育関係論集』、査読有、第24号、2011年、55-83
 10. 佐藤安功、ルソーとヘルダーにおける欠如と補償ー言語と人間形成を手がかりにしてー、日本ヘルダー学会『ヘルダー研究』、査読有、第16号、2011年、1-23
 11. 相澤伸幸、〈変化する力〉への意志——ルソーとカント、『プロテウス』、査読有、第13号、2011年、27-43
 12. Takara Dobashi, Eva Marsal, Bildungstheoretische Betrachtung zum Verständnis der Historie, 『広島大学大学院教育学研究科紀要』第1部、査読有、第59号、2010年、1-10
 13. 笹田博通、自然的形成の論理（1）ーゲーテ自然学と人間形成論ー、『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、1-13
 14. Takara Dobashi, Claus Günzler, Goethes Lebensprinzip im Zusammenhang mit den Bildungstheorien der modernen Pädagogik -Eine Diskussion-, Erster Teil, 『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、151-170
 15. 松山雄三、若いシラーの人間学的思想の形成について（1）、『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、35-54
 16. 松山雄三、Fr. シラー：人間形成論の胎動、東北薬科大学『一般教育関係論集』、査読有、第23号、2010年、25-60
 17. 金浜耕基、クラインガルテンの歴史ー1945年から今日までー、『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、15-34
 18. 佐藤安功、二人のエミール対立と連関ー人間形成的視点からー、『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、55-72
 19. 相澤伸幸、ルネサンス期における〈人間の完成〉について、『プロテウス』、査読有、第12号、2010年、73-85
 20. 相澤伸幸、〈道徳〉と〈倫理〉の前提的境界設定に関する教育学的考察、『京都教育大学研究紀要』、査読無、第115号、2009年、13-26
- 〔学会発表〕（計9件）
1. 佐藤安功、J.-J. ルソーにおける人間と市民の連関についての一考察、教育哲学会、2011年10月15日、上越教育大学
 2. 笹田博通、ゲーテ自然学と人間形成論、日本ヘルダー学会、2010年11月28日、東北大学
 3. 松山雄三、Fr. シラーの自然観と遊戯の思想、日本ヘルダー学会、2010年11月28日、東北大学
 4. 相澤伸幸、ニーチェにおける超人と赤子の二面性、日本ヘルダー学会、2010年11月28日、東北大学
 5. 金浜耕基、ゲーテの庭園／鷗外の菜園、日本ヘルダー学会、2010年11月27日、東北大学
 6. 佐藤安功、ルソーとヘルダーー二つの言語論をめぐるー、日本ヘルダー学会、2010年11月27日、東北大学
 7. 松山雄三、Fr. シラーの思考傾向と Spiel 論について、東北独文学会、2009年10月31日、東北学院大学
 8. 松山雄三、Fr. シラーの教育の心についてー美的教育の思想を中心にー、東北教育哲学教育史学会、2009年9月5日、東北大学
 9. 松山雄三、教育思想家としてのシラー、日本ヘルダー学会、2009年6月14日、

立教大学

〔図書〕（計3件）

1. 笹田博通、東北大学大学院教育学研究科、
『自然と教育－ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在－』（科研費研究成果報告書、笹田博通研究代表）、東北大学大学院教育学研究科、2012年、全120頁
2. 相澤伸幸、学文社、『学校教育と道德教育の創造』、2010年、7－57頁
3. 金浜耕基、文永堂出版、『園芸学』、2009年、1－24頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹田 博通 (SASADA HIROMICHI)
東北大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：80154011

(2) 研究分担者

土橋 寶 (DOBASHI TAKARA)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：00125618

松山 雄三 (MATSUYAMA YUZO)
東北薬科大学・薬学部・教授
研究者番号：90075812

金浜 耕基 (KANAHAMA KOKI)
東北大学・大学院農学研究科・教授
研究者番号：00113936

佐藤 安功 (SATO YASUTAKA)
仙台高等専門学校・総合科学系文科・教授
研究者番号：00154112

池尾 恭一 (IKEO KYOICHI)
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：60184404

相澤 伸幸 (AIZAWA NOBUYUKI)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：20331259

齋藤 雅俊 (SAITO MASATOSHI)
東北女子大学・家政学部・准教授
研究者番号：90581869